

特集：次世代情報教育の構築に向けて ——メディア活用——

# 高校生による速報型動画配信を用いた地域情報発信 学習の実践

中村 隆敏\*, 山口 史倫\*\*, 吉永 伸裕\*\*, 三浦 洋輔\*\*

## Regional Information Dissemination Learning using News Flash Type Videos by High School Students

Takatoshi NAKAMURA\*, Fumitomo YAMAGUCHI\*\*, Nobuhiro YOSHINAGA\*\*,  
Yousuke MIURA\*\*

### 1. はじめに

これまで、学校現場の ICT 活用としての情報機器類は、学習者や指導者にとって単一では支援教具として有効でも、複数を統合的に使用するには操作が複雑で活用できていない現実があった。

本研究では、地域に存在する学校の放送部の生徒が、地域イベントの情報収集、取材、ビデオ撮影、速報型編集、Web 配信という動画配信のワークフローにより、さまざまな情報機器を複合的に連携させて操作し、情報発信を主体的に行うことを学んだ。

特徴としては、テレビニュースと同様に速報配信を意図的に制限事項とし、2時間取材、2時間編集を約束事とし、午前と午後、各1回の配信を1週間行った。番組は3分程度のビデオクリップであり、BGMやタイトル、テロップも作成の必要条件とした。

この結果、生徒の作業集中力と情報機器活用能力がこれまでよりも伸び、デジタルビデオカメラやコンピュータの機能理解、ネットワーク整備等、広範な ICT スキルが養えた。

また、回数をこなすことにより、番組の構成力や完成度も高まった。本実践研究から、動画配信に Web ニュース速報というフレームを加えることで、情報や

情報機器を能動的に活用し、積極的に問題解決を図る能力が育まれることが分かった。

### 2. 実践目的と概要

学校現場における ICT を用いた教育方法は、情報機器 (PC、ビデオカメラ、デジタルカメラ、スキャナ等) によるハードウェア類と、主に PC 内で活用される WWW ブラウザ、ワープロ、表計算、ビデオ編集アプリケーション等ソフトウェア類に分けられる。

近年は教師が PC とインターネットを授業における支援ツールとして活用する場面は増えているものの、生徒が問題解決を図るために PC やビデオカメラ等情報機器とインターネットを効果的に組み合わせ、主体的に情報発信を行うような教育内容はまだ少ない。

理由としては、機能的に優れた情報機器が即、教育用として使えるものではないこと、教育システムのインターフェイスが洗練されておらず、子供には使いづらいこと、さらに教師側に ICT 活用の力量が全体的に伴っていないことがあげられよう<sup>(1)</sup>。

現状の e ラーニングを代表とする ICT を用いた教育システムは、学習者の支援システムとして知識到達型、訓練型には適している。しかし、学習者が情報機

\* 佐賀大学文化教育学部 (Faculty of Culture and Education, Saga University)

\*\* 佐賀県立有田工業高等学校デザイン科 (Arita Technical High School)

受付日：2008年5月8日；再受付日：2008年7月30日；採録日：2008年9月2日